

28年10月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成28年 10月1日～ 28年10月10日

2. 調査実施方法

全国の合板工場-1に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
10月分の回答企業数は6社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 国産原木入荷動向 Weight. D. I.

品目		28/10月	11月	12月
入荷動向	スギ	0.0	25.0	50.0
	ヒノキ	33.3	33.3	33.3
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	33.3	0.0	0.0
消費動向	スギ	20.0	25.0	0.0
	ヒノキ	0.0	0.0	△ 33.3
	カラマツ	20.0	25.0	25.0
	トドマツ	33.3	0.0	0.0
在庫動向	スギ	△ 40.0	0.0	0.0
	ヒノキ	△ 33.3	△ 33.3	△ 33.3
	カラマツ	△ 40.0	△ 50.0	△ 50.0
	トドマツ	33.3	△ 33.3	0.0

・合板原木の入荷はスギ及びヒノキは概して増加するが、カラマツは横ばい、トドマツは10月の増加が、11月、12月は横ばい。

・合板原木の消費はスギ及びカラマツは総じて増加傾向、ヒノキは10月、11月の横ばいが、12月は減少。トドマツは10月の増加が、11月、12月は横ばい。

・合板原木の在庫はスギは10月の減少が、11月12月は横ばい。ヒノキ及びカラマツは3ヵ月連続して減少。トドマツは10月の増加が、11月は減少、12月は横ばい。

(2) 合板用原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	28/10月	11月	12月
スギ	0.0	0.0	0.0
ヒノキ	0.0	0.0	0.0
カラマツ	0.0	0.0	0.0
米マツ	0.0	50.0	0.0
北洋カラマツ	50.0	0.0	0.0
その他	-	-	-

・合板原木の購入価格はスギ、ヒノキ及びカラマツは3ヵ月連続して横ばい。米マツは10月の横ばいが、11月は強含み、12月は横ばい。北洋カラマツは10月の強含みが、11月、12月は横ばい。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・先月と同数量の生産なので、原木入荷はほぼ横ばい。在庫はほぼ横ばい。
・順調に入荷。月を追うごとに消費増加。カラマツ不足。
・スギは土場整理もあり若干の仕入れ調整が必要、トドマツは消費量が増加傾向にあり入荷量を少しづつ増やす。原木消費は横ばい。カラマツの在庫が多く、少しづつ在庫調整する。
・スギ丸太の入荷が9月中旬から急激に減少、計画数量を下回る。スギ在庫減少、他方面での使用ルートが増えている。
・伐採が増える時期なので入荷も増えている。常にフル生産、消費は稼働日で決まる。12月は消費が減る。入荷は増えてくるが、消費以上に増えるかは疑問 (特にヒノキ)

(原木価格)

・カラマツは強含みの横ばい。
・特に変化なし。今後心配。
・国産材は横ばい。外材は、全体的に現地価格が強含みとなっている。
・多少変動あるも、ほぼ横ばい。
・在庫が増えるまでは価格はキープする。

28年10月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 生産動向 Weight. D. I.

品目		28/10月	11月	12月
生産動向	構造用(9mm)	20.0	25.0	33.3
	〃 (12mm)	33.3	40.0	20.0
	〃 (15mm)	16.7	20.0	20.0
	〃 (24mm)	50.0	60.0	40.0
	〃 (28mm)	16.7	20.0	20.0
出荷動向	構造用(9mm)	20.0	25.0	25.0
	〃 (12mm)	33.3	40.0	40.0
	〃 (15mm)	16.7	20.0	20.0
	〃 (24mm)	50.0	60.0	25.0
	〃 (28mm)	50.0	40.0	20.0
在庫動向	構造用(9mm)	△ 20.0	△ 25.0	△ 25.0
	〃 (12mm)	△ 50.0	△ 60.0	△ 40.0
	〃 (15mm)	△ 16.7	△ 20.0	△ 20.0
	〃 (24mm)	△ 50.0	△ 60.0	△ 60.0
	〃 (28mm)	△ 50.0	△ 60.0	△ 20.0

・構造用合板の生産及び出荷は全品目で3ヵ月連続して増加、中でも厚物(24mm)の増加が大きい。

・合板の在庫は全品目で3ヵ月連続減少、中でも厚物(12mm, 24mm, 28mm)の減少が大きい。

(2) 構造用合板出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	28/10月	11月	12月
構造用(9mm)	20.0	25.0	0.0
〃 (12mm)	33.3	20.0	0.0
〃 (15mm)	16.7	20.0	0.0
〃 (24mm)	33.3	20.0	0.0
〃 (28mm)	33.3	20.0	0.0

・出荷価格は全品目で10月、11月の強含みが、12月は横ばい。

モニターからのコメント

(構造用合板の荷動き)

- ・多少の増減はあるが、生産はほぼ横ばい。生産分をほぼ全量出荷するため出荷は先月と変わらない。低水準の在庫で横ばい。
- ・特に厚物の生産を増加。すべてのアイテムにおいて引合い多く、生産待ち。全てにおいて欠品。
- ・生産＝出荷となり、12mm、24mmなど生産増加を見込む。生産後2,3日で出荷となり、動きは速い。12mm、24mmは引合い多く、在庫は減少。
- ・出荷は、計画より1割増、在庫は全品種で減少。
- ・先月同様、在庫量、製品の荷動きに合わせての出荷となる。先月同様、12mm、ネダノン共に引合い強く、荷動き活発、生産状況に合わせての出荷となる。在庫は増える状況にない。

(構造用合板の価格)

- ・10月は上昇、値上げするため。
- ・上昇傾向だが、極端な値上げはなさそう、安定価格へ。
- ・品薄で品種により多少上昇。
- ・価格は横ばい、しばらく様子見が続くと思う。